












(3) 暮らしの中の音

① 暮らしの中でどんな音を出しているのかな？

私たちはたくさんの音に囲まれて生活しています。人の声や足音、車の音、テレビやCDの音、店先のスピーカーの音、工事の音など、音にはたくさんの種類があり、音の大きさもいろいろです。

身近な音の大きさ **デシベル** (音の大きさを表す単位)

40 デシ	50 デシ	60 デシ	70 デシ	80 デシ	90 デシ	100 デシ
 <p>●図書館</p>	 <p>●静かな教室 ●上の階で走りまわる足音</p>	<p>●ふつうの話し声 ●1mはなれたテレビの音</p> 	 <p>●うるさい教室 ●1mはなれたステレオの音</p>	 <p>●上空を通過するヘリコプターの音 ●1mはなれたピアノの音</p>	 <p>●ダンプカーの走る音 ●5mはなれた犬の鳴き声</p>	 <p>●大声大会の声</p>
<h3>人に与えるえいきょう</h3>						
 <p>ぐっすり眠れない 眠れない</p>	 <p>計算まちがい をしやすい</p>	 <p>集中力がなくなる</p>	 <p>会話ができない</p>			

音には、楽しい気分になる音や役に立つ音もありますが、反対にうるさく感じる音もあります。人がうるさく感じたり、迷わく感じたりする音を「そう音」と呼んでいます。

私たちは、自分でもいろいろな音を出して生活しています。自分にとっては迷わくと思わなくても、周りの人には迷わくになっていることもあり、知らないうちにそう音を出していることもあるのです。

その他にも、自動車やバイクなどによるそう音、飛行機のそう音、工場などから出るそう音、工事現場の

そう音、スピーカーからの大きな音などたくさんの種類のそう音があります。

札幌でも、例えば自動車のそう音などがひどくなってくると、道路のそばに住んでいる人たちが迷わくします。

また、そう音と共に「^{しんどう}振動」も問題になっています。振動とは「ゆれ」のことで、人が感じないような小さな振動から、たなから物が落ちてくるような大きな振動まであり、しばしばそう音といっしょに発生します。

② どんなことに気を付けたらいいのかな？

私たちがそう音や振動で、他の人に迷わくをかけないようにするために、下の絵のようなことに気を付けましょう。

そうじ機、せんたく機など

- 使う時間を考える。
(朝早くや夜おそくには使わない)
- せんたく機はぼう音、
ぼう振用のゴム脚を付ける。



テレビ、ステレオ、楽器など

- 聞く時間や楽器などを
鳴らす時間に気を付ける。
- 音量を考えて聞く。
- 窓を閉める。



足音

- アパートやマンションでは、
ドンドン音を立てて歩かない。
- じゅうたんなどをしいて、
下の階に音や振動が
伝わりにくくする。



けいたい電話・スマートフォン

- たくさんの方がいる前や、
電車、地下鉄、バスの中では使わない。
- 映画館やコンサート会場などでは
電源を切る。



声

- 地下鉄や電車、バスの中で大きな声でさわがない。
- 夜には、大きな声を出さない。



- ・ときどき家の外に出て、自分の家からどれくらい音が出ているか確かめてみましょう。
- ・騒音計を使って、実際に音の大きさを測定してみましょう。